

## 「3.11被災地、宮城県・石巻に『震災総合供養堂』の建立、及び長期の交流・支援」事業

### いのちの祈り・希望・縁をコンセプトに大震災で命を失った2万人を供養するための「見まもり観音堂」の建立に尽力する

石巻湾に面した牡鹿半島の桃浦。カキの養殖で知られた風光明媚な集落を東日本大震災で発生した津波は容赦なく呑み込んだ。浜沿いの70戸の住宅のうち、残されたのは山に近い3戸と小学校だけ。この地に、約650km離れた長野県佐久市の有志たちを中心とする会が、2万人の死者・行方不明者の供養を目的にした観音堂を建立する事業を進めている。

#### 息の長い被災地支援を続けるために奇跡の観音様を本尊とする供養堂を建てる

大震災の2週間後、佐久市にある蕃松院と大林寺の住職を務める増田友厚さんと支援ボランティアグループは、地域の住民や所縁のある人々から託された支援物資を持って被災地を訪問。最後に訪れたのが、石巻市桃浦地区の避難所となっていた萩浜小学校だった。そこで偶然、本堂や庫裏を流された当地の洞仙寺の八巻芳栄住職に出会う。

その後も支援グループは被災地を訪れ、支援や交流を続けていたが、震災から1年半ほど経ったある日、津波に巻き込まれながらもほぼ無傷の状態で見つかった聖観音

像があるという話を八巻住職から聞かされた。「お寺さんは全壊しましたが、その観音様だけがつぶれた本堂の梁の上で、目の前の海と集落を見守るように残されていたそうです。それは奇跡の観音様と呼びたいようなインパクトのあるお話でした」と、増田さん。

ちょうどその頃、支援グループは、物資中心の支援からどんな形の支援に変えれば、末長い支援を続けていけるのか、今後の支援のあり方について模索していた。その過程で被災地の方々が静かに、そして不安そうに語る「どうか私たちのことを忘れないでほしい」、「つらい亡くなり方をしたのだから、せめて安心して成仏してほしい」という声を思い起こした。

支援を続けてきた仲間たちと議論を重ねた結果、「祈り(供養)・希望(復興支援)・縁(長期の交流)」をコンセプトに、震災で亡くなったり、行方不明になった約2万人の人々を供養するお堂を洞仙寺の敷地内に建立させていただき、そこに奇跡の観音様をご本尊として安置し、見まもり観音堂にしようという話がまとまった。「各地に慰霊碑が建てられていますが、亡くなられた2万人のすべての方々を供養しようという考えに基づいた施設は、おそらくないでしょう」と、グループのメンバーは語る。



佐久からバスを仕立てて、浜供養に向かう



浜供養では現地の方々も一緒に参加



被災地の浜で法要のあと、浄石を拝集



写経した浄石は、観音様に抱かれるように足元に安置

#### 呼びかけ人によって広がる賛同者の輪と被災地における浜供養での浄石拝集

2013年2月、増田さんを代表として「見まもり観音堂建立の会」が発足。8月に全国から約900名の賛同者が参加した大集会在蕃松院で開かれ、建立資金の募金が始まった。この会では、呼びかけ人といわれる人がそれぞれの知人や縁者に声をかけて賛同者の輪を広げているが、そのなかには神主さんや牧師さんもいて、宗教宗派を問わない集まりとなっている。2015年3月11日時点で、9862名の賛同者から約4680万円の募金が集まったが、賛同者以外にも名前を出さずに募金をした人も多数いるという。

募金と並行して、会では震災で亡くなった人の菩提を弔うために被害の大きかった被災地で浜供養を行うことにしている。昨年は佐久からバスを仕立て、いずれも1泊2日で、石巻市～女川地区、南三陸町～大船渡市、仙台市～南相馬市の3回の慰霊行脚をして浜供養を実施、のべ33名の住職、182名の一般参加者があった。その際、津波が襲った海岸で浄石拝集と称して石を拾い集め、この石に写経をし、完成後の見まもり観音堂に供えることになっている。今後、浜供養は青森県から千葉県までの海岸で実施する予定で、浄石は犠牲になった人々の数相

#### 担当者より



草の根的な広がりに日本人の心情も捨てたものではないと実感

見まもり観音堂建立の会  
事務局長  
竹内聖哲さん

写真は増田さんほか事務局の人々

被災者のご縁があって出会い、その大変さを知った以上、見て見ぬふりはできないという深い感情が、会のみなさんや賛同者を動かしているのだと思います。南相馬での浜供養にはAJOSCの前理事長である青松英和氏も駆けつけてくださり、ありがとうございました。約2万人という犠牲者のすべてを供養するとともに、完成後も観音堂を復興と支援のシンボルにしたいと思っています。

当の2万石を集めるという。「石の一つ一つが亡くなられた一人一人の命。しかも、その石は流された人、亡くなった人の叫びや嘆きを聞いていたはずですよ」と、増田さんは浄石に込めた意味を語る。

会の事務局に、支援開始から現在までを振り返って感想を聞いたところ、「みなさんの団結力がすごい。この会をきっかけに関係が深まった」(事務局・竹内佳代子さん)、「海外からの賛同者もいて、輪の広がりに驚いた。資金面で目途がついてひと安心」(会計・高橋勝助さん)、「名簿作成を担当しているが、ようやく先が見えてほっとしている」(事務局・松井兵衛さん)、「被災者の気持ちに少しでも寄り添いたいと思うと同時に、その難しさも感じている」(事務局・鈴木正男さん)と、話す。見まもり観音堂は、2016年2月に完成予定である。



「見まもり観音堂」完成イメージ図